



オリンパス光学工業株式会社

本社 東京都港区麻布台原町1845
営業所 東京都中央区銀座東1の2



オリンパスカメラの歌

作詩 元談工房
作曲 いづみ・たく

あ かる い し ん ス わ た し の か わ い い
 オ リ ン パ ス カ メ ラ

そ う つ た

あ い お と ぱ っ ぱ ち り

わ た し の か わ い い し ん ス

そ う つ た ぱ っ ぱ ち り

あ い お と ぱ っ ぱ ち り

わ た し の か わ い い し ん ス

そ う つ た

オリンパスカメラの歌

作詩 元談工房
作曲 いづみ・たく

一 ぱ っ ぱ ち り オ リ ン パ ス

そ う つ た ぱ っ ぱ ち り

し ん ス は ス イ コ ー あ か る い し ん ス

わ た し の か わ い い し ん ス

ぱ っ ぱ ち り オ リ ン パ ス

オ リ ン パ ス カ メ ラ

二 ぱ っ ぱ ち り オ リ ン パ ス

ま あ い お と ぱ っ ぱ ち り

し ん ス は ス イ コ ー あ か る い し ん ス

あ な た の だ い じ な し ん ス

ぱ っ ぱ ち り オ リ ン パ ス

オ リ ン パ ス カ メ ラ

三 ぱ っ ぱ ち り オ リ ン パ ス

ス ナ キ ナ カ メ ラ ぱ っ ぱ ち り

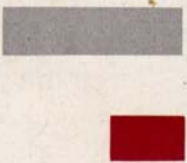
し ん ス は ス イ コ ー あ か る い し ん ス

う ち じ ゅ う び ん な の し ん ス

ぱ っ ぱ ち り オ リ ン パ ス

オ リ ン パ ス カ メ ラ

OLYMPUS Pen



オリオン光学工業株式会社

念のため、あなたのカメラ番号を擦えて
おきましょう。

ボディ No.

OLYMPUS Pen

INSTRUCTIONS



Pen

オリオンペン

気軽にパチパチ写せる、それも特別のフィルムは不要で、どこにでも売っている35ミリフィルムが使え、しかも必要によっては、大倍率の引伸しもできる高性能レンズをもった本格的な超小型カメラ

オリオンペンは、そうした意味で、極めて広範囲の活躍を約束する理想のカメラです。

ポケットにもハンドバッグにも、スツボリと入り、何よりも大げさでない、さりげなさが魅力です。

どうぞ、オリオンペンを何時もそっとお伴にしてお出掛け下さい。



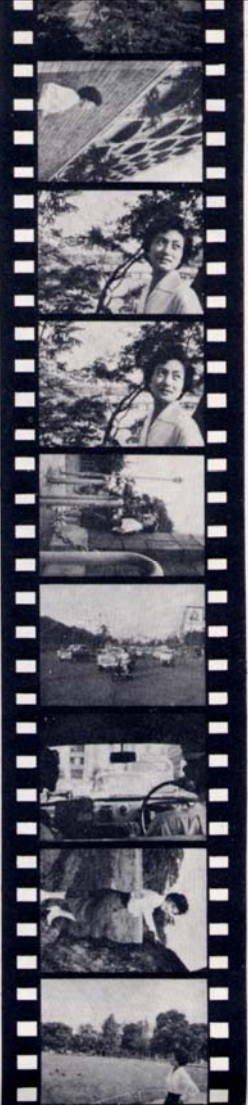
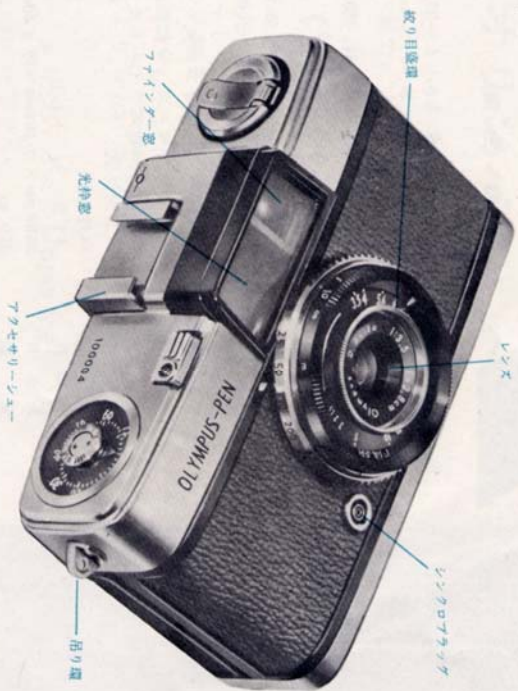
Pen

主な性能

- レンズ シヤッター
 - 絞り フライインダー
 - 焦点調節
 - フィルム捲上、裏蓋閉閉
 - 三脚孔
 - 大きさ
 - 重
- Dスライコー F 3.5 f = 28mm
 コバール #000 B、 $\frac{1}{2}$ 、 $\frac{1}{4}$ 、 $\frac{1}{8}$ 、 $\frac{1}{16}$ 秒
 ×接点
 3.5、4、5.6、8、11、16、22
 光軸フライインダー 0.5×
 回転ヘリコイド
 距離目盛 0.6、0.7、0.8、0.9、1、1.2、
 2、3.5、10、 ∞ (m)、2m近接、5m一般
 常焦点、クワックストツツ
 リヤードワインディング式
 セルフロックキング、自動捲上、二重露
 出防止、残数式フィルムカウンタ
 クラシック式
 取外し式
 JIS $\frac{1}{4}$ "小ねじ
 高68mm × 巾108mm × 厚さ40mm
 350 gr

Pen

オリンパスペンの各部の名称



Pen

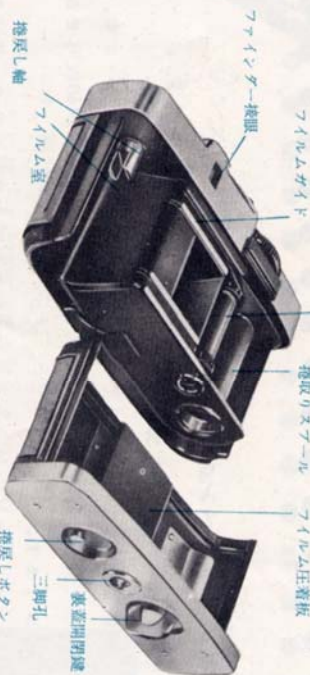
オリンパスペンのフィルムサイズ

オリンパスペンには、35ミリフィルムがそのまま、使えます。

撮影画面は、24×18ミリでライカ版の丁度半分になっています。

従って36枚どりで72枚、20枚どりでカラーフィルムが40枚写せることになります。

(注) カラースライド用のフラスコが市販されており、普通のフラスコター(投影器)で充分カラーフラスコを楽しむことができます。



Pen

レンズは4枚構成のDズイコー

オリンパスペンのような超小型カメラになりますと、どうしてもフィルムサイズが小さくなります。ですからこれを大きく引伸す為には、高解像力の優れたレンズが必要で、

ペンには、4枚構成のツッサータイプ、Dズイコー F3.5 f=28mmが、特別に設計されました。

f (焦点距離) 28mmはライカ版に換算しますと40mmになります。



Pen

フィルム の 入れ方

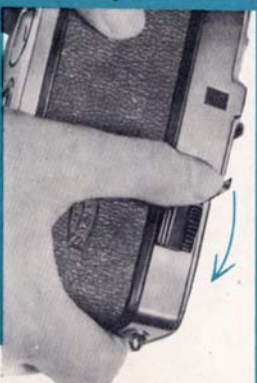
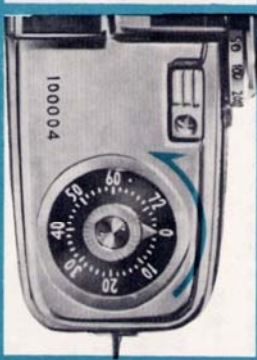
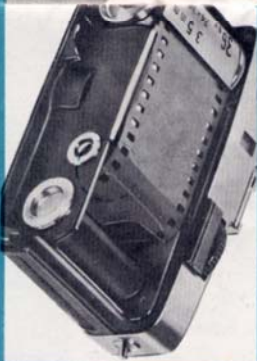
- ① 先づ裏蓋をとり外します。底部の開閉鍵をおこし、矢印の方向に止るまで写真のように、カメラを左手にもち、左手の親指で裏蓋を押し下げながら、右手で、すくも裏蓋を引きます。カメラを左手に持って、捲取スプールの溝にフィルムの先を充分廻し込みます。スプールの溝は回転しますから、指先で廻して溝を差し込み易い位置に直しておくとき楽に差し込めます。フィルム室に収めます。その際、捲戻パトローネまたはマガジンを、マガジンの溝がカッターチリはまるようにします。次に捲戻スクラックを少し捲戻し方向に廻し、スクラックの溝にフィルムのパワーブレーキシヨンの孔が、あるようにします。この状態で、さっきと逆の方法で裏蓋を閉じます。



- ④ フィルム枚数計を合わせます。親指の腹で、フィルム枚数計上のワザミを抑え、写真の矢印の方向に廻し、▲の指標を装填したフィルムの長さに合わせてみます。(例へば36枚よりは72に) 次に捲上ギヤを止るまで廻転しますと、第1回目の撮影になります。

(ご注意)

直射光線の下でフィルムを入れることはやめましょう。カメラに入れたフィルムのASA密度はよく覚えておきましょう。



セルフコッキングシステムとは

捲上ギヤを止るまで廻しますと、フィルムが1駒分捲上されると同時に、シャッターがチャージャーされます。つまりフィルムを捲上げてシャッターを切るという2動作で撮影ができる訳です。

この方式をセルフコッキング・システムといいます。また、捲上ギヤを止るまで廻転させるとシャッターは切れません。又1度シャッターを切った後で、フィルムを捲上げずにシャッターを2度切ることができません。これを二重露出防止装置といいます。これをフィルムを入れ終りました。次へ行きましょう。



絞りの調節

絞りは光の入る量を決定し、ピントの範囲を左右する大切な装置です。絞り目盛は3.5、4、5.6、8、11、16、22 絞り環は、距離環と一緒に廻りますので、写真のように距離環を抑えて廻転させ、白の▲に合わせます。

絞り目盛は1段数字が増す毎に光量が半分となります。撮影の際には、この絞りとしヤッタースピードとの関係を充分考えて下さい。

(3.5 から4 に変へる場合は光量は2倍となります)

シャッター スピードの調節

オリンパスペンシャッタースピードは、 $\frac{1}{6}$ 、 $\frac{1}{8}$ 、 $\frac{1}{16}$ 、 $\frac{1}{30}$ 、 $\frac{1}{60}$ 秒とB(バルブ露出)のついたものです。

スピード環を廻転して、必要な速度目盛を中央の黒点に合わせてみます。各目盛はカチツと止るクリックストップになっています。

Bはバルブ露出のことで、黒点に合わせてレリーズボタンを押すと、シャッターが開き放すと閉じます。これは1秒以上の露出に使います。

焦点調節 (ピント合わせ)

距離目盛はメートルで表示され、60cmの至近距離から∞(無限遠)まで刻まれています。
 ペンの焦点調節は、シングルヘリコイドレンズ全体が廻転しながら進退しますのでピントは何時も最高の性能を発揮します。
 距離の測定は目測か距離計を使いますが、ペンのレンズは焦点距離が短い為ピントが深く、**極度の近接撮影以外は、固定焦点をお使いになれば、ピントの心配はいりません。**

固定焦点

ペンの距離目盛には、2mと5mが赤字でクワックストップになっています。
2mが近接撮影、5mが一般撮影の固定焦点で、共に絞りを5.6以上に絞って使います。
 例えば5mに合わせ5.6に絞りますと2.45mから無限遠まで全部ピントが合います。
 (18. 19頁参照)



撮影の時の注意

あとはシャッターを切るだけです。次の点に注意して下さい。

- ① 小型カメラは、手ぶれを特に注意して下さい。その為には次頁のように、しっかり構えることです。
- ② ペンの鏡胴は、非常に低くなっています。その上レンズの写角が広いので、構えた時に指がレンズにかぶらないよう注意して下さい。皮ケースをつけて撮影する時も同様です。
- ③ 逆光(光源に向かって)で撮影する時は、レンズに光線が直に入らないよう注意して下さい。この場合は専用フードを使います。
- ④ フイルムの種類、光線の強い時、紫外線の多い場所、表現方法などいろいろな条件によって、それらに合ったフイルターを使うことも大切です。紫外線防止に使うUVフイルターはレンズ保護用にもなります。

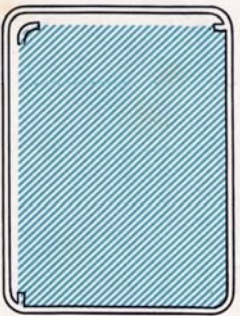
光枠フレインダー

次にフレインダーを覗いてみましょう。
 ペンのフレインダーは光枠フレインダーが採用されています。

光枠の特長は写したいものの構図が簡単に決められること、フレインダーを覗く位置が少しずれても写角に誤りがないことです。

撮影の場合は、写したい範囲が光枠の中に一杯に入るようにして下さい。

又至近距離で撮影する場合にはバララックス(視差)とフレインダーの位置が異なるために生ずる視野の誤差を補正するため光枠の図の斜線の範囲に写したいものが入るようにして下さい。
 (カメラの構え方は15頁参照)



構え方

- ① この構え方で撮影しますと縦位置に写ります。両腕を出来るだけ身体につけるようにしてしっかり構えて下さい。
- ② この構えですと横位置に写ります。



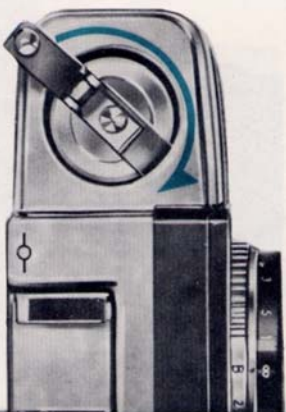
これで撮影完了です。
フィルムを捲戻します。

捲戻シクラックを起します。

次にカメラ底部の捲戻しボタンを押し上げたまま、クラックを写真の矢印の方向に廻します。フィルムを捲戻している間は、クラックが重く感じられますが、フィルムが捲取られスプールからフィルム先端が外れる瞬間、急に軽くなります。

この時がフィルムが全部捲戻された時です。

カメラから取り出したフィルムに直射光線が当たらないように気をつけて下さい。



特殊な撮影—フラッシュ同調撮影

フラッシュバルブには、M・Fの2つのクラスとクセノンガスの真空放電を利用したストロボライトがあります。

オリンパスペンにはFクラスのフラッシュバルブ・ストロボライトをお使い下さい。

フラッシュバルブをカメラに取付けるには、ガンの取付足をアクセサリーシューにはめ込み、コードの先端をシンクロプラグに差し込みます。

その際、Flash (フラッシュ・サイド・ナンバー)の印に被写体までの距離を合わせますと、その時の絞りが自動的に決ります。

フラッシュ撮影の場合、シャッタースピードは1/25に合わせます。
(ASA100のフィルムを使用)

フラッシュサイドナンバー



Dスライコーと被写界深度について

固定焦点の項で一寸おられましたように、レンズの焦点距離の深いということが、どれ程便利であるかを簡単にご説明いたしましょう。

例えば、カメラから違った距離にA・B・C3人の人がいたとします。

Aにピントを合わせるとB・Cはボケ、Bにピントを合わせるとA・Cはボケル筈です。

しかしこれは理論上のことで、実際にはボケにも程度がありますから、実用上ボケているとは見られないボケを許しますと、この3人の内、Bにピントを合わせた時、AもCもボケないという範囲が考えられます。

この時、BからAまでを前方の深度、BからCまでを後方の深度といえます。

この被写界深度は、レンズの焦点距離や絞りによっても変わりますので、この範囲が広いことを深度が深いと呼んでいます。

一般に焦点距離が短ければ短い程、絞れば絞る程この深度は深くなります。

オリンパス ペン 焦点深度 (Dスライコー F3.5 f=28mm)

(許容するボケの直径を $\frac{d}{1000}$ とした場合 d=画面の対角線長)

距離目盛 絞り	焦点を合せた距離 (メートル)											
	0.6	0.7	0.8	0.9	1	1.2	1.5	2	3	5	10	∞
5.6	0.54	0.62	0.69	0.77	0.84	0.97	1.15	1.42	1.86	2.45	3.23	4.72
	0.67	0.80	0.94	1.08	1.23	1.57	2.14	3.38	8.02	∞	∞	∞

これで5mのところをご覧下さい。

5.6に絞った場合2.45mから無限遠までピントが合っています。

そしてこのレンズの特性を応用したのが固定焦点というわけで、5mと絞り5.6でおおよそあらゆる撮影が可能であり、一々ピントの苦勞をする必要の全くないことがお分かりになると思います。

更にこのことは、スナップなど速写性を必要とする撮影にご都合がいいことですから、貴重な瞬間を見逃さずに、キヤッチすることが良い写真を撮る秘けつなのです。

一年間の標準露出表

SS (ASA100) フイルム使用

被写体 (晴天前後 2時間位)	広い風景	戸外人物	日暮人物	近街 ツラツラ	近動 植物	海岸 人物	広雪 海岸
春・秋	F16 $\frac{1}{500}$	F11 $\frac{1}{500}$	F5.6-11 $\frac{1}{500}$	F11 $\frac{1}{500}$	F11 $\frac{1}{500}$	F11 $\frac{1}{500}$	F22 $\frac{1}{500}$
夏	F22 $\frac{1}{500}$	F16 $\frac{1}{500}$	F8-11 $\frac{1}{500}$	F22 $\frac{1}{500}$	F16 $\frac{1}{500}$	F22 $\frac{1}{500}$	F22 $\frac{1}{500}$
冬	F11 $\frac{1}{500}$	F8 $\frac{1}{500}$	F5.6 $\frac{1}{500}$	F8 $\frac{1}{500}$	F8 $\frac{1}{500}$	F11 $\frac{1}{500}$	F11 $\frac{1}{500}$

上記の露出表は大体の標準ですから被写体の明暗、朝夕等の条件に応じて変更して下さい。
朝・夕・淡曇り、又はS級 (ASA50)、フイルム使用の場合は2倍に、暗曇りは3-4倍にSSS (ASA200) の場合は5倍の露出にします。
UVフイルター使用の場合は露出は要らず、Y2フイルター使用の場合は2倍になります。
露出を2倍にする時は絞りを1目盛開くか、シャッタースピードを半分にします。

取扱上のご注意

- ① レリーズボタンは静かに押して下さい。手ぶれの写真はいただけません。
- ② 撮影時以外は、常にレンズキャップかUVフイルターを被せて下さい。
- ③ カメラには、ホコリと湿気が大敵です。
- ④ レンズに指紋をつけぬこと。誤ってつけた時は、すぐ清潔なノリのついていない木綿布で拭いて下さい。
- ⑤ そのまゝにしておくと、とれなくなりません。
- ⑥ レンズに糸状のカビが発生したら、オリンパスのサービスステーションにお持ち下さい。すぐお掃除いたします。
- ⑦ カメラを海水に落した時は、すぐ清水で洗い、修理にお出し下さい。ぐずぐずしているとう腐蝕して使えなくなりません。

付属品

オリンパスベンの付属品は、次のものをお揃え下さい。

フーバ
光線が直かにレンズに入りますと、フレッターとかゴーストの原因になり、写真が台無しです。ベンの専用フーバは絞り環にかぶせて使用します。

フイルター
フイルターは、UV・Y2・スカイライトの3種類を発売しております。

ソフトケース

持ち歩きに便利な、ハンドストラップ付ソフトケースです。極上のなめし皮と、シヤレたハンドストラップがスマートフォンを強調します。

マガジンプ
長巻きのフイルムをお使いになる方には是非必要なものです。

オリンパス サービスステーション

オリンパスでは、全国7ヶ処にサービスステーションを開設、愛機の御相談、修理その他御質問等に対し御満足の戴けますように、常駐要員を常駐させております。

オリンパス サービスステーション所在地

- | | | |
|-----|-------------------|-------------|
| 東京 | 東京都渋谷区幡ヶ谷原町 845 | 電話(37)5151 |
| 東京 | 東京都中央区銀座東1の2 | 電話(33)52461 |
| 東京 | 東京都千代田区神田錦町 1の3 | 電話(29)1721 |
| 名古屋 | 名古屋市中区南伊勢町 1の8 | 電話(24)5962 |
| 大阪 | 大阪府南区安堂寺橋通り 2の32 | 電話(26)6071 |
| 九州 | 福岡市馬場新町 68-5 | 電話(3)5356 |
| 北海道 | 札幌市南1条西 3 札石ビル 5階 | 電話(4)0171 |

正誤表

11頁 絞りの調節

3.5から4に変える場合は光量は1/4減となります

19頁 1行目

絞りを8にした……の8は5.6

なお 17頁の特殊な撮影に下記説明を補足します。

シャッタースピードの選び方

- (1) ストロボライトの場合 シャッタースピードはどれでも結構です。
- (2) フlashesのフラッシュバルブをご使用の場合は 1/50秒に合せます。
- (3) M flashesのフラッシュバルブをご使用の場合は 1/25秒に合せます。

絞りの選び方

- (1) 一般のバルブ及びストロボライトについては、それぞれのガイドナンバーをその時の被写体距離で割った値に絞りをセットして下さい。
 - (2) ASA 1000のフィルムで 7,000~10,000ルーメンセカンダ (バルブの箱に明示してあります) のバルブをお使いになるときには Flash 目盛で簡単に絞りがきまります。
- この場合には被写体距離に相当する絞り環のメートルの数字を Flash のマークに合わせるだけで適正な絞りになります。

正誤表

1. 札幌支社の電話 札幌 { (2) 2364

(3) 5931 とあるは

(4) 9389

札幌 { (2) 2364 と訂正

(3) 5931

2. 仙台支社の電話 仙台(3) 9464 増設

3. 富山支社の電話 富山 773 増設

4. 高松支社の電話 高松 3509 とあるは
高松(2) 3509 と訂正

5. 渋谷月掛営業所の電話
渋谷(46) 0191~0193 架設

6. 熱田月掛営業所は金山橋と店名変更、
ならびに電話南(32) 2608 架設

7. 今里月掛営業所の電話南(7) 0494 とあるは
大阪(37) 0494 と訂正

